

## IOS-01 「Cognitive Training and Assistive Technology for Aging」

オーガナイザ：大武 美保子（千葉大学）  
桑原 教彰（京都工芸繊維大学）

国際セッション「Cognitive Training and Assistive Technology for Aging（認知機能訓練と高齢者支援技術）」では、認知機能訓練や、認知機能評価手法を中心に、高齢者支援技術に関する研究発表を募りました。人間の知能を育み、質の高い生活が送れるよう支援する人工知能の実現を目指しています。2012年の全国大会で修了認定を受けた近未来チャレンジ「認知症予防回復支援サービスの開発と忘却の科学」の開催を通じて、日本でできたネットワークを世界に広げる取組みの一環として開催しました。

本セッションは二つのセッションで構成され、6月5日の夕方に7件、6月6日午前中に5件、合計12件の発表がありました。各セッションの最初が招待講演です。

前半セッションの最初は、スイス・チューリッヒ大学のマイク・マーチン教授に、遠隔会議システム Skype にて講演いただきました。加齢により体の調子が悪くなくても、質の高い生活を送れるよう工夫することが、高齢者の認知機能維持向上につながります。会話による認知機能訓練手法、共想法の実施を通じて、生活の質を維持する工夫が共有されたことが報告されました。

後半セッションの最初は、韓国・成均館大学のスーカン・リー教授に、支援が必要な高齢者が自立して生活できるよう助けるロボットについて紹介いただきました。工場のように整備されていない生活環境の中でロボットが自在に動き回るためには、人間の認知過程を考慮しつつ、従来開発されてきた認識技術を統合するアプローチが有効とのことでした。

発表題目ならびに発表者の一覧は次のとおりです。

1. (招待講演) The Functional Quality of Life (fQOL)-Model and its Application to the Coimagination Method: Mike Martin(University of Zurich)
2. Fundamental Study to New Evaluation System Based on Physical and Psychological Load in Care Work: Hiroaki Inoue (Tokyo University of Science, Suwa)
3. The Relationship between Human Brain Activity and Movement on Car Driving for New Assistive System: Shunji Shimizu (Tokyo University of Science, Suwa)
4. Relationship between Affordance and Dementia Care: Akinori Abe (Chiba University)
5. Analysis of the Relationship between the Feelings towards Fellow Residents and the Number of Photos: Eiko Nagata (Makabe Silvertopia)



図1 Mike Martin 教授の遠隔招待講演



図2 Sukhan Lee 教授の招待講演

6. Characterizing the Effect of Consumer Familiarity with Health Topics on Health Information Seeking Behavior: Ira Puspitasari (Osaka University)
7. Accepting Gastrostomy with Elderly Relatives: Takako Mizuoka (Japan Advanced Institute for Science and Technology)
8. (招待講演) HomeMate: Cognitive Robot for Elderly-Care: Lee Sukhan (Sungkyunkwan University)
9. Development of an Agent System for Conversing with Individuals with Dementia: Kiyoshi Yasuda (Chiba Rosai Hospital / Kyoto Institute of Technology)
10. Toward Personalized Cognitive Training for Elderly with Mild Cognitive Impairment Using Cerebral Blood Flow Activation: Shohei Kato (Nagoya Institute of Technology)
11. Improvement of the QOL of Elderly People Utilizing ICT: Airi Tsuji (Kyoto Institute of Technology)
12. Analysis of Overlap during Group Conversation of Active Older Adults: Mihoko Otake (Chiba University)

本セッションの1, 9, 12番目の発表は、後日東京新聞の一面に6回にわたって連載された「AIで支える認知症」という特集の最初の3回で紹介され、反響を呼びました。

今後は、高齢者支援技術に関する国際会議などで、セッションをオーガナイズすることなどを通じて、ネットワークを広げていく計画です。

〔大武 美保子（千葉大学）、  
桑原 教彰（京都工芸繊維大学）〕